

1 単元名 古典作品を読み比べて、作品の内容や構成について批評文を書こう  
 (『伊勢物語』「芥川」「言語文化 第一学習社」)

2 単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 [知識及び技能] (2)ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

作品の内容や構成について、批評文を書く活動。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)イ)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ)	① 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(B(1)ウ)	① 他の作品などとの関係を踏まえ、批評文を書くことを通して、作品の内容や形式、表現について粘り強く理解を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材は、歌物語を代表する作品である。本教材を扱うことで、歌物語における和歌が物語の中でどのような位置付けにあり、どのように機能しているかに注目する視点を養う。和歌は物語のクライマックスに置かれ、詠者の心情や感動を端的に表現したものである。和歌に込められた詠者の思いを読み解くことで内容や構成を的確に捉え、内容の解釈を深めることが可能となる。また、本教材を通じて、基礎的な知識を習得し、和歌についても特有の表現などについて評価できることを目指す。さらに、「芥川」とストーリーがほぼ同じ内容の作品として『今昔物語集』の「在原業平中将女、被噉鬼語」があるが、ジャンルの違う2つの作品を読み比べることで、歌物語の特徴をより明確に捉えることができると考える。以上のことから、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する力を育成するのにふさわしい教材であると考えられる。

(2) 生徒観

言語文化の授業ではこれまで、古文は、「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)、「絵仏師良秀」(『今昔物語集』)を読んで、古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取ったり、文法事項においては用言を学んだりした。事前の意識調査(対象：1年\*組生徒\*名)では、国語の中で最も好きな分野を問う質問に対して、小説が\*%、評論が\*%、漢文が\*%とある中で、古文を挙げた生徒は\*%

となった。小説が好きな理由については、「物語を読むことや登場人物の心情を読み取ることが楽しい」などが挙げられ、古文については、「内容が理解しづらい」、「文法事項なども覚えなければならないから難しい」という意見が多く見られた。

以上のことから、小説のストーリーを追ったり、心情などを読み解いたりすることが好きな生徒が多い一方で、古文については苦手意識をもち、特に古典を読むために必要な知識・技能の習得に課題があるといえる。

### (3) 指導観

本単元では、古文に対する苦手意識を軽減して、興味・関心を高めるために、物語文を教材とした。授業では、第一次で単元の見通しをもち、和歌の読み取りを行って物語の内容を予想することで、次の授業への意欲を高められるようにする。次に、本文の口語訳を行うが、その際、古語や文法事項は読み取りに関わる重要部分に絞って確認をすることで、「難しい」という印象を過度に与えないよう留意する。口語訳を行う際は、生徒同士が対話をしながら協働で取り組むようにし、各自が内容を理解した上で、『今昔物語集』との読み比べを行う。読み比べの際には、『今昔物語集』との相違点に着目しながら『伊勢物語』の内容や構成について考察しているかを見取る。できていない生徒には、グループのジャムボードや、教科書に掲載されている「東下り」「筒井筒」「あづさ弓」も参考にして考察するように助言を行う。単元の最後には『伊勢物語』の内容や構成について批評文を書き、自分の考えや根拠の妥当性を検討する。このような工夫を通して、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する力や、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する資質・能力を育成することができると考える。

## 6 単元の指導計画（6時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1 ・ 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           学習課題            物語の中で、和歌はどのような役割を果たしているだろう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を設定し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・和歌に込められた心情を読み取り、批評文を書くために必要な学習過程を確認する。</li> <li>・「芥川」の和歌について、古語の意味と文法事項を確認したうえで、内容を解釈する。</li> <li>・和歌と教科書の写真（『伊勢物語絵巻』）をもとに、物語の内容を想像する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           まとめ            和歌は、詠者の心情や感動を端的に表現していて、物語の内容を想像する時に、大きなヒントになる。         </div>			○	態①：単元の目標を設定し、学習の見通しをもっているかを確認する。難しい生徒には、個別に助言する。【ワークシート】  知①：古語や文法事項について理解できているかを見取る。和歌の解釈でつまづいている生徒には辞書や文法書を使って調べるように助言する。【観察・ワークシート】

2	3	<p>学習課題</p> <p>重要古語や文法事項を確認して本文を口語訳し、自分が想像した内容と比較しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要古語や文法事項を確認する。</li> <li>・本文をグループで口語訳する。</li> <li>・前時に自身が作った物語と比較する。</li> <li>・和歌が物語のクライマックスになっていることを確認する。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>物語の大筋は合っていたが、細かい現代語訳が違った箇所がいくつかあった。古単語は複数意味があるので、文脈から意味を想像して読むと同時に、正しい意味を覚える必要がある。</p>		◎	<p>知①：古典を読むために必要な従業語句や文法事項、古典特有の表現などについて理解している。 【観察・ワークシート】</p>
3	4	<p>学習課題</p> <p>『今昔物語集』と読み比べてみて、『伊勢物語』はどのような特徴があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『伊勢物語』「芥川」と、『今昔物語集』「在原業平中将女、被噉鬼語」の相違点をジャムボードに記入して、『伊勢物語』の内容や構成についてグループで考察する。</li> <li>・グループで話し合ったことを全体で発表し交流する。</li> <li>・全体の意見を踏まえ、個人で再考する。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>『伊勢物語』では和歌が物語の中心的役割を果たすことで、情緒性、余情性が生まれている。地の文が短く簡潔なことから、読み手は想像力を働かせて物語を読むことができる。</p>		○	<p>思①：『伊勢物語』の内容や構成について、『今昔物語集』との相違点に着目して考察しているかを確認する。できていない生徒には、ジャムボードの記述や既習事項を振り返りながら、考察するように助言する。 【ジャムボード・ワークシート】</p> <p>○ 態①：粘り強く学習に取り組んでいるか見取り、できていない生徒には個別に声をかける。【観察】</p>

4	5 本時	<p>学習課題</p> <p>『伊勢物語』の構成や展開について感じたこと、分かったことを批評文としてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習をもとに、『伊勢物語』の内容や構成について批評文を書く。</li> <li>・ジャムボードに記入した内容に加えて、個人で再考した視点も盛り込むようにする。</li> <li>・教科書に掲載されている「東下り」「筒井筒」「あづさ弓」も参考にして、説話の既習事項を振り返り、考察する。</li> </ul>		◎	<p>思①：作品の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について考えたことについてまとめ、批評文を書いている。 【ワークシート】</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批評文をもとにグループで交流し、自分の考えや根拠の妥当性を評価する。</li> <li>・チェックシートをもとにして、妥当性があるか、本文にもとづいているかなどを確認しながら交流する。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>『伊勢物語』は、物語なので情景描写や主人公の心情、セリフなどが丁寧に描かれていて、和歌にもそれが反映されている。話の展開を捉えることで、和歌に込められた心情をより深く理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を通して学んだことや次の学習に生かしていきたいことについてリフレクションシートに記入する。</li> </ul> <p>振り返り</p> <p>同じ題材でも、作品によって描かれ方が異なっていて、興味深い。地の文を読むことで、和歌に込められた心情をより深く理解することができる。今回学んだことを、これからの学習に生かしたい。</p>		◎	<p>態①：批評文を書くことを通して、作品の内容や形式、表現について粘り強く理解を深める中で、自らの学習を調整しようとしていた。 【リフレクションシート】</p>